令和３年　第４回　対　馬　市　議　会　定　例　会　会　議　録（第２日）

令和３年12月８日（水曜日）

議事日程（第２号）

令和３年12月８日　午前10時00分開議

日程第１　会派代表質問

本日の会議に付した事件

日程第１　会派代表質問

出席議員（19名）

１番　糸瀬　雅之君	２番　陶山荘太郎君
３番　神宮　保夫君	４番　島居　真吾君
５番　坂本　充弘君	６番　伊原　　徹君
７番　入江　有紀君	８番　船越　洋一君
９番　脇本　啓喜君	10番　春田　新一君
11番　小島　徳重君	12番　小田　昭人君
13番　波田　政和君	14番　小宮　教義君
15番　上野洋次郎君	16番　大浦　孝司君
17番　作元　義文君	18番　黒田　昭雄君
19番　初村　久藏君	

欠席議員（なし）

欠　　員（なし）

事務局出席職員職氏名

局長	國分　幸和君	次長	平間　博文君
課長補佐	柚谷　智之君	係長	犬束　興樹君

説明のため出席した者の職氏名

市長 …… 比田勝尚喜君
副市長 …… 俵　輝孝君
教育長 …… 永留　和博君
総務課長（選挙管理委員会事務局書記長） …… 桐谷　和孝君
しまづくり推進部長 …… 伊賀　敏治君
観光交流商工部長 …… 村井　英哉君
市民生活部長 …… 二宮　照幸君
福祉保険部長 …… 乙成　一也君
健康づくり推進部長 …… 松井　惠夫君
農林水産部長 …… 黒岩　慶有君
建設部長 …… 佐々木雅仁君
水道局長 …… 立花　大功君
教育部長 …… 八島　誠治君
中対馬振興部長 …… 波田　安徳君
上対馬振興部長 …… 森山　忠昭君
美津島行政サービスセンター所長 …… 瀧川　昌浩君
峰行政サービスセンター所長 …… 藤原　亘宏君
上県行政サービスセンター所長 …… 原田　勝彦君
消防長 …… 主藤　庄司君
会計管理者 …… 阿比留　裕君
監査委員事務局長 …… 内山　歩君
農業委員会事務局長 …… 主藤　公康君

午前10時00分開議

○議長（初村　久藏君）　おはようございます。

総務部長、木寺裕也君から欠席の申出があっております。

ただいまから議事日程第２号により、本日の会議を開きます。

―――――――――――・―――・―――――――――――

日程第１．会派代表質問

○議長（初村　久藏君）　日程第１、会派代表質問を行います。

本日の登壇は、２会派を予定しております。

それでは、届出順に発言を許します。新政会、６番、伊原徹君。

○議員（６番　伊原　　徹君）　皆さん、おはようございます。

初めに、本年９月定例会で、明るい安全なまちづくりとして、厳原町大町通りの一部が暗いとの御指摘を受け、街灯設置のお考えを質問いたしましたが、現状のデザインはまちづくり推進委員会で御決定とのお答えを頂きました。

その後、近隣の方々から、やはり暗い、また市内で発行の新聞のコラムに、９月定例会での私の質問内容が掲載され、町並みの景観と安全性に若干の乖離があるように感じられております。

９月定例会での市長のお答えは、事業主体は長崎県とのこと、町並み・景観を重視したのは十分理解できますが、一定の明るさで安全なまちづくりも重要と考えていますので、再考をお願いをいたします。

それでは、本題に入ります。

さて、本日は会派代表質問の機会を与えていただきました。新政会の伊原と申します。よろしくお願いいたします。

昭和から平成・令和時代における本市の変遷、サブタイトルに、将来を担う子どもたちへの継承についてを質問させていただきます。

日本気象協会のデータによりますと、昭和元年から令和元年までの９４年間で、平均気温が１．４度上昇し、海面は２メーター高くなったと報告をされております。このことは、１８世紀の産業革命以降、化石燃料の需要が高まり、二酸化炭素が急激に増えたため、２１世紀を迎えた今、地球規模での温暖化現象となり、世界の各地で、また国内でも大規模な自然災害が発生するなど、人々の暮らしに多大な影響を及ぼしています。

本市でも、近年の異常気象によって、大雨洪水による河川の氾濫などの自然災害、さらに温暖化の影響もあり、海水温の上昇、豊富であった藻場消失により、ヒジキ、ワカメ、カジメや魚介類など海の恵みそのものの資源が失われ、海で暮らす人々の生活の支えに大きな影響を及ぼしています。

このように、気候変動により消失した海藻類や魚介類など、資源の恵み回復に向けた取組はどのような対策を講じられているのか、お尋ねをいたします。

次に、本市の面積の９割を占める森林の状況でございますが、うち個人所有、民有林の割合は９２％ですが、所有者の高齢化などにより、杉やヒノキなどの人工林の手入れ不足が多々見受けられます。

さらに、一部でございますけれども、地域によっては農地の多くは耕作放棄地が確認されるなど、私の幼少時代の古きよき時代背景を育んだ世代から想像すらできない状態に突入したと言えます。

今を生きる我々昭和世代の責務として、将来を担う子供たちへ、この自然豊かな島での平穏な

暮らしを継承するための施策はどのように進められているのか。また、将来における本市の姿づくりを含め、その取組についてお尋ねをいたします。

なお、本日は、関連質問といたしまして、第１次産業の漁業関連につきましては、会派のベテランでございます作元議員に託していますので、どうぞよろしくお願いいたします。

以上でございます。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　おはようございます。新政会、伊原議員の質問にお答えいたします。

対馬市沿岸では、温暖化等の複合的な影響により、藻場を取り巻く環境はこの２０年近くの間に大きく変化し、アラメ、カジメ、ヒジキ等の大型褐藻類の衰退現象が発生し、磯焼けの拡大が深刻化しております。

現状としまして、近年の海水温の上昇に伴い、藻場の回復阻害要因として、これまであまり問題にならなかった植食性魚類の食害が顕在化し、藻場の形成時期や構成種のほうが大きく変化をしております。

このため、磯焼け対策として、市内全域の漁業集落において補助事業を活用した食害魚の駆除や海藻類の種苗投入等様々な取組を実施していただいているところでありますが、なかなか有効な成果につながっていないのが現状であります。

このような状況を踏まえた今後の取組といたしまして、まずは既存海藻種の維持、回復に向けて、各漁業集落が主体となり、全域で連携を図りながら食害魚、ウニの駆除を継続して行う必要があると考えております。

同時に、藻場の変化の実態や海水温の変化等に注視しながら、大学等の研究機関と連携し、継続して原因究明及び対策に取り組んでまいります。その過程で、既存海藻種の存続が困難であると判断される場合は、地元の意向を確認しながら、高水温に適した南方系種の導入等についても慎重に議論を進めるべきであると認識しております。

また、栄養塩の欠乏も藻場衰退の一因と考えられることから、森、川、里、海における生態系の適切な連環の必要性を再認識するために、産業間の横断的な連携による情報交換、対策の検討等の柔軟な対応が必要であると考えております。

対馬の豊かな海の恵を次世代につなげるためには、藻場の回復は今取り組まなければならない重要な課題と認識しておりますので、「自立と循環の宝の島　対馬」の実現のために、地元と一体となって取組を推進してまいります。

次に、島で暮らす将来を担う子どもたちへの継承についてでございますけども、まず、林業についてでございますが、私たちの暮らしの変化とともに、森林との関係が薄くなってきたことや所有者不明森林が増加することにより、山の手入れが行き届かず、多面的機能が失われて、地域

の農林水産業にも大きく影響することが広く知られております。

現在、国が進める森林経営管理制度により、対馬市は森林所有者の意向を確認し、森林経営計画を立てて森林を整備する事業を推進しております。

今後は、手入れが行われていない森林の整備を促しつつ、森林を経済ベースで活用する地域経済の活性化を進めて、次世代につなぐ持続的な森林環境の整備に取り組んでまいります。

次に、農業についてでありますが、質問にありました耕作放棄地は対馬全体で５１２ヘクタールあります。そのうち、再生利用が可能な遊休農地は１３４ヘクタールとの調査結果であります。この農地では、新たな利活用を検討し、対州そばの栽培で活用するなど、耕作放棄地解消につながる事業を展開しているところでございます。

また、農地中間管理事業を積極的に行い、青年等新規就農者に対する給付金事業などを活用して、農業の担い手対策と農地の集約を行っております。

また、議員の質問にあります将来を担う子供たちに対しても、現在、学校単位で取り組むシイタケの栽培体験や緑の少年団活動が行われており、今後も市有林を活用した植林体験や里山の体験メニューを関係団体と連携して創設するなど、体験を通して学び、心から慣れ親しむことで、将来を担う子供たちの育成につなげていくことが私たちに課せられた使命と感じ、今後取り組んでまいりたいと存じます。

以上でございます。

○議長（初村　久藏君）　６番、伊原徹君。

○議員（６番　伊原　　徹君）　まず、初めに気候変動について少し触れさせていただきたいと思います。

今年の１０月３１日から２週間ですか、イギリスで国連気候変動枠組条約第２６回締約国会議、通称ＣＯＰ２６が開催されておりました。会場の外には世界各国から多くの若者が集結するなど、盛大な会議となっております。この中では、気温１．５度の目標を達しなければ、次世代を担う子供たちに取り返しのつかない事態に発展する。今まで以上に将来世代への配慮が求められております。

今回のＣＯＰ２６には、日本からの未来を担う４名の高校生が参加しております。このことは、市長は御存じでしたか。

気候変動に関しましては、２０３０年までの１０年間の取組が重要とのことで、今から２７０年前の産業革命以前の１．５℃の目標に向かって世界が努力するということが正式合意をされているということで報じられておりました。

ちなみに、２７０年前の二酸化炭素濃度は２８０ｐｐｍ、今現在は４００ｐｐｍが観測され、その濃度は４０％以上増加していると報告をされておりました。

また、今から２４年前の１９９７年、平成９年１２月には、地球温暖化に関して京都会議、通称これはＣＯＰ３が開催され、先進国において二酸化炭素を含む６種類の温室効果ガスの排出削減の数値目標が京都議定書として、さらに２０１５年、これはパリ協定、温室効果ガス排出削減等のための新たな国際枠組みが採択をされております。

さて、本市の空模様はどうでしょう。各家庭の電力供給には不可欠な事業所がほぼ中央にございまして、火力発電所ですか、国内の工業地帯と比較しますとごく僅かなCO_2排出量と考えています。今、世界や国内では化石燃料から海洋や地上での風力発電。本市でも一部でございますけれども、風力発電やソーラーパネルなどが稼働しております。

今後のソーラーパネルとか、この風力発電とか、対馬市として、もし計画、お考えがございましたら、一言お願いをいたします。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　対馬市といたしまして、新たなエネルギーの計画はないかということでございますけども、今現在、ソーラーに関しては、各個人の家庭のほうで屋根等に掲げられている計画、そしてまた民間事業者が計画されるソーラーパネルの大規模な工事につきましては、平瀬原の地域でかなりの面積を計画し、実施をもう既にされているところでありますけども、そのほかについてはまだ私は聞いておりません。

ただし、実はこの１１月２８日でしたか、ＯＲＣの６０周年記念のイベントがありましたときに、浅茅湾を中心とした対馬の空の遊覧飛行ということで市内の子供たちが搭乗されておりました。ここに私も搭乗させていただいて、空からこの対馬を眺めたときに、特に厳原近辺では、あらこんなところにかなりのソーラーパネルがあるねというような視察が見受けられました。ここは、また私も後で調べてみたいと思っております。

そういう形で、今現在、新たな計画はちょっとまだ確認はしておりませんけども、市といたしましてそのような計画があったときには力強く支援をしてまいりたいと思っております。

そして、またもう一方の洋上風力発電でございますけども、これは、今現在、環境省のほうからも助成を頂き、その洋上風力に向けた調査等を今現在しているところでございます。ただし、今現在、事業候補付近の海面を利用をしてある漁業者の皆様の御理解等をまだ最終的に頂いた状況ではないというようなことであります。

そういうことで、市といたしましては、今、議員おっしゃられたように、将来的なクリーンエネルギーを確保していくためにも、このソーラー発電そして洋上風力発電等の整備は、大変重要ではないかというような認識をしているところでございます。

以上です。

○議長（初村　久藏君）　６番、伊原徹君。

○議員（６番　伊原　　徹君）　計画は、十二分に今後進められるということで認識いたしましたので、ぜひ推進のほうお願いしたいと思います。

気候変動や温暖化など近年の異常気象によって本市でも大雨洪水や災害、それから温暖化の影響で海水温の上昇もございますけれども、私たちの小中学生、高校生の頃の藻場は、海藻類が極めて豊富でありましたが、御承知のとおり近年では残念な結果となっております。このように、気候変動、温暖化による影響は顕著と言えます。

ここで、資料をちょっと作成しておりますので、御説明したいと思います。

これからの資料は、対馬の現状と課題という報告書の数値を参考にしております。このグラフでございますけれども、１９６５年、昭和４０年から２０１５年、平成２７年までの５０年間の５年ごとの本市の温度変化を表しております。左が年間最高気温、それから右は年間最低気温を表しております。最高気温が高かった年は２０１０年、平成２２年に３４．６度が記録されています。次に、年間最低気温でございます。右側の黄色のグラフでございますけれども、１９７０年、昭和４５年にマイナス６．４度が記録をされております。

年間最低気温でございますけれども、市長や副市長は裕福な御家庭で育ってあると思いますので、ハンカチはポケットにお持ちじゃなかったかと思います。当時の私の周りでは、学生服の袖口を代用せざるを得なかった。その代償として、黒い生地が真っ白くなったその記憶がございます。

いずれにしましても、この資料でお分かりと存じますけれども、本市の５０年間の最高気温も最低気温も、近年では地球温暖化による上昇傾向がうかがえるのではないかと思います。

次の資料でございますけれども、これも同じように１９６５年から２０１５年までの５０年間の１時間当たりの降水量を表した資料でございます。参考ですけど、１時間当たりの最高降水量は１９８０年、昭和５５年に９８ミリ、最低降水量は１９９０年、平成２年に３１ミリが記録されております。この時代の災害情報を調べておりましたところ、長崎を含む九州各地で集中豪雨による災害が確認をされました。このように、地球規模による気候変動により、本市の豊かな海に影響があったことがうかがえます。

さて、先月まで気温が高く、本市の至るところで、紅葉の季節でありましたけれども、過去の状況を確認をし、なおかつ考えていきますと、紅葉そのもののコントラストが薄いように感じられました。これは、やはり山の恵、森林の状況が少し栄養等が低下してるんじゃないかと感じております。

先ほど、市長のほうからも御説明がございました。本市の９割を占める森林面積は６万３，２０４ヘクタール、うち民有林面積が５万８，１６４ヘクタール、全体の９２％を占めております。一部の森林の荒廃は、有害鳥獣の影響と相まって、かつ所有者の高齢化などにより手入れ

が行き届いてないということは市長も感じられていると、先ほど御報告を頂きましたので、同じような意見だろうと思っております。

特に、森林資源の大きな役割、これは二酸化炭素の吸収、それから山肌の災害防止など大きな役割を担っております。

次に、農業の現状はどうでしょう。

日本人は農耕民族から始まっております。くわや牛などで耕した時代から、現代社会では様々な農機具によって作業効率も高まっております。かつ、収穫も安定していると感じております。

また、一部でございますけれども、ドローンなどによる収穫時期や空中からの肥料等の散布、この作業などがＡＩ機器の利活用が盛んに行われております。

本市の農業分野は、就農者の高齢化もございますけれども、稲作、肉用牛、鶏飼育、各種野菜などの農産物を個人や事業所で、また若年層で経営をされております。このような農産物は、ＪＡ対馬が中心となって農村地域や従事者の支援を行っておりますけれども、過去に大きな事案でトラウマになって、本来の支援が、農協自体の御支援が薄れているのではないかと。何もこのことはもう萎縮することなく、もう少し伸び伸びと進められていいんじゃないかという期待をしております。

このことにつきまして、農業の従事者、それからＪＡの理事さんからこのようなお言葉を頂いておりますので、機能維持、しっかりと取り組んでいただくとともに、市のほうの後方支援を是が非でもお願いしたいというふうに考えております。

市長は、漁業分野に長く携わっておられましたけれども、今までの説明で、本市の林業や農業分野の取組に関して率直な御意見をもう一度お願いできないでしょうか。よろしくお願いします。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　農業、林業等のこれからの持続的な活動をしていくためにはどのようなことが必要だろうかというようなことだと思います。

その前に、先ほどこの温暖化の関係でいろいろと教えていただいたところではありますけども、実は、私も小学生の頃は黒の学生服を着せられたときには、袖口がもうかぱかぱになって、真っ白になったということは、今でも記憶しておりますし、私たちの小さい頃には川やため池等で冬場は氷遊びをしたり、また学校の行き帰りには道路の横ののり面に大きなつららがはなのように垂れ下がっていたというような記憶も今ございます。そういうことで、かなりの温度が上がってきたのではないかなというふうに危惧しているところであります。

農業、林業の関係についてでありますけども、まず、先ほども答弁させていただいたように、この森林におきましては所有者不明の森林が増えてきていて、それぞれの森林のほうの手入れがなかなか行き届いていないというようなことから、洪水がかなり量が増えてきておりますので、

こういったときにまた災害を誘発しやすくしているのではないかというように危惧しております。

そういう関係もありまして、今年度、森林組合のほうと協定を結びまして、森林組合のほうに市有林等の間伐そして管理をしていただくと、その上でまた市のほうには幾らかの間伐で得た料金等はバックしていただくというようなことで協定を結ばせていただいております。

一方、農業のほうにつきましては、やはり対馬は対州そばがメインであります。そういうことで、できる限りこの対州そばを振興していくように、反当たり幾らかだったかちょっと私も今記憶にはございませんけども、助成をしたりしながら、対州そばの増産に向けて振興策を進めていきたいというふうに思っておりますし、これが、対州そばが、今、都市部のほうからも欲しいという話は私のところにも来ておりますけども、なかなかこれを向こうのほうまでに送るまでには至ってないということも聞いております。そういうことで、できる限り対州そばの増産に向けてこの耕作放棄地等の改良等を進めていきたいというふうに考えているところであります。

○議長（初村　久藏君）　６番、伊原徹君。

○議員（６番　伊原　　徹君）　ここで、参考でございますけれども、本市の第１次産業の就業人口について少し触れたいと思います。

昨年、国勢調査が実施されておりますけれども、まだ詳細なデータが報告されておりませんので、この数値につきましては、平成２７年の実施とその５年前の数値の比較となっております。左が農業、それから中央が林業、それから右が漁業の就業人口ということで、農業、林業、漁業従事者の２０１０年、平成２２年と５年後の平成２７年の就業者を表したグラフでございます。農業従事者につきましては、５年間で５８５名から７４名の減、それから林業は１７３から１４１、３２名の減、それから漁業従事者が最も多くて２，５９９名から２，２９２名、３００名以上の方々が従事から外れております。近年では、杉やヒノキなどの人工造林の間伐も、先ほど市長がおっしゃいましたように、盛んに行われております。この間伐材やチップ加工や自然木材はパルプなどの需要も高まって、安定した生産が行われているというふうに私自身も理解をしております。

山に携わっています個人の事業者にお尋ねいたしましたが、本市は県下でも有数のシイタケ生産量がございます。それで、シイタケ原木伐採後にクヌギを植栽をするに当たって、有害鳥獣対策としてネット、どうしても囲う作業が平地と急傾斜地ではやっぱり作業効果に難があるということでございました。当然、個人作業でございますので、その作業には限界があるということでありましたので、本市の主要産業でもあります第１次産業の安定供給とその就業者へのより深い支援、対応が必要じゃないかというふうに考えております。

それで、昨年実施されました５年ごとの国勢調査の速報値が報告されておりましたけれども、この人口問題、日本の人口が政令都市を除いて減少傾向にあると。２０１５年から、昨年実施さ

れました２０２０年の国勢調査での５年間に、日本の人口は約９４万人減少したと。かつ、６５歳以上の割合でございますけれども２８．６％、それから１５歳以下の割合が１１．９％、この６５歳の割合は世界で最も高い、それから１５歳以下の年齢層は１１．９というとこでございますので、これ世界で最も低いというふうに発表されておりました。

私の個人的な感想でございますけれども、高齢者の１００歳のお祝い、長寿のお祝いがあっております。このことは、これで非常に結構なことだと思います。

実は、いろんなイベント等で、私の知り合いの中にもお二方、お子さんが４名から５名いらっしゃる御家庭がございます。そして、イベントでお会いますと、お母さんが前にそれから背中に２人、それから御主人が、今度は右左両手でイベント会場で行ってあります。

高齢者の表彰もそれはもう非常にいいことではございますけれども、こういった多くお子さんをお持ちの方も少しやっぱり表彰の台に上げる必要があるんじゃなかろうかというふうに考えられますので、これはお子さんの多人数の御家庭の表彰も少し考慮されてはいかがでしょうか。これは、私の個人的な感想とそれから提案でございます。機会がございましたらぜひお願いしたいと思っております。

そろそろ時間が参ってますね。最後の資料でございます。

この資料でございますけれども、旧町別の人口と世帯数を表したグラフでございます。左が各町別の人口で、それから右の上が、これは人口の減少率、それから下は世帯数の減少率を表したグラフでございます。

１点ちょっと間違いがございました。２０１５年の国勢調査の数字の人口が３１４５７となっておりますけど、コンマがちょっとずれておりますので御容赦頂きたいと思います。

２０１５年の国勢調査から、先ほども申しましたけれども、５年前と比較しますと、２，９５０名、それから世帯数が１万３，３９３で、５年前と比較しますと４２０世帯の減少と。

それで、今回の国勢調査での対馬の確定値が出ておりました、人口の。これが、２万８，５０２名。前回、その２０１５年の５年前の調査と比較しますと、２，９５５名の人口減ということになっております。

右のグラフで見てお分かりと思いますけれども、この数値から見えることが一つございます。島の北部３町の減少率が高まっているのではないかと、こういうふうに確認はできています。このことを参考に、人口減に歯止めをかける施策にシフトしなければと感じています。

本市は、合計特殊出生率や出生数などから亡くなられた方々を差し引いた自然増加率は極めて低いという数値になっております。ここをいかに高めるかが鍵となっておりますので、このことに関して、市長のお考え、最後のお考えで結構です。最後で結構です。市長のお考えございましたらお尋ねしますが、新たな子育て支援策。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　人口減少対策ということでございますけども、この人口減少対策につきましては、対馬市でも一番の喫緊の課題ということで認識をしているところであります。そういうことで、できる限りの施策は進めているところではありますけども、なかなかその成果がまだ現れないということで、今後もブラッシュアップしながら、この人口減少対策には努めてまいりたいというふうに考えております。

○議長（初村　久藏君）　６番、伊原徹君。

○議員（６番　伊原　　徹君）　実現に向けて、ぜひ進んでいただきたいと思っております。

過去は振り返ることができますけれども、決して戻ることはできません。対馬の空や海、山、里など、昭和の原風景や生活様式、豊富でありました資源の回復、これからの子供たちへどのように継承していくかは、今を生きる私たちに委ねられているのではないかと思っております。島の経済政策には、一部の地域への集中した人口構造ではなく、それぞれの地域が同じような利便性を持った生活ができるように求められているのではないかと思っております。島に生きる我々世代が御先祖を守り、さらに将来の子供たちも同様の生活ができるよう、集落の保全とともに住み続けられる島づくりを市民の皆様とともに築いてまいりましょう。

さて、私に与えられた時間が参りましたので、次の漁業関連につきまして、作元議員にバトンを渡したいと思います。どうもありがとうございました。

○議長（初村　久藏君）　関連質問に入ります。

新政会、１７番、作元義文君。

○議員（１７番　作元　義文君）　新政会の作元でございます。関連質問の機会を頂きましたので、二、三点質問をしてみたいと思います。

私は、水産業関係について、今、代表のほうで質問をされました。昭和から平成それから令和、この流れの中で、非常に厳しい状況に、今、水産業も立たされております。私も５０年漁師をやっておりますけれども、非常に昔を思い出すと、今は何だというような悲しい思いにとらわれているときがあります。

今、代表のほうからもありましたように、まず藻場が枯れてしまった。これは平成１０年ぐらいから、平成１０年ぐらいまでは何とか藻場も確保されておりました。ヒジキも道路際へずらっと干されて、車がやっと通るぐらい。それくらいのヒジキが取れております。カジメもそうですけれども。海は真っ黒に海藻でなびいておりました。そういった時代がだんだんなくなって、今はもう真っ白になっております。海の中は真っ白。

だから、資源が枯れてしまった、資源が狭められてしまった、これによって水産業の衰退が始まってるんだというふうに思います。

この藻場もそうですけれども、東シナ海は中国から、大和堆は北朝鮮、これも中国、ソビエトから漁場を奪われて、昔は日本の対馬の漁船も大和堆までイカ釣りに行っておりました。北海道まで行っておりました。今はそこまで行く人はおりません。東シナ海もそうですけれども、東シナ海はヤリイカの産卵地になってるんですね。あそこは砂場が多いから、あそこで産卵をしたイカが対馬近海に上ってきているというふうに言われておりますけれども、まあまあ資源は奪われた、漁業をどうしていくかということで、１点、質問の中に上げておりますけれども、昭和から平成、令和にかけて、対馬市、あるいは長崎県で対馬近海に相当数の魚礁が投入されたと思います。この数値を、数をちょっと教えてほしいなと思います。

それから、海底人工山脈、これも対馬と壱岐の間に、今設置されていると思うんですが、この進捗状況等をもう一回、もう一個、対馬の南側にもその計画は、私は前あったような気がするんですけど、あるのかないのか、こういったところもお聞かせいただければなというふうに思います。

やはり、これだけ資源が狭められてくると、魚礁の有効利用というものが今まで漁業者がこれから高齢になってきます。ぜひ魚礁を有効に利用して、近くで、近場で高級魚が漁獲されるような体制づくりがこれから必要になってくるのではないかなというふうに、私も漁をしながら感じておりますから、魚礁の設置状況とこれからどうするかということを教えていただきたい。部長でも結構です。

それから、漂流、漂着ごみ、これが対馬近海はものすごい数があると思うんですね。今、回収されている漂流、漂着ごみはほんの僅かではないかなと思います。これを、やはり今、ドローンもちゃんとありますので、空から撮ってみて、どれくらいの容量があるのか、対馬近海、９７０キロの海岸線があります、対馬市はね。そこの中にどれだけの漂着物がたまっているのか、これは対馬だけの問題じゃなくて、こういったものは、やはり国としっかり相談をしながら、やっぱり回収もしなければいけないというふうに思います。

タンカーが座礁したのと一緒だと私は思っていますよ。それこそ船が行かんところは山積みです。漂流、漂着ごみのね。そういったものもこれからの課題になってくるのではないかなというふうに思いますから、市長の考えと部長の考えをいただきたい。よろしくお願いします。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　これまでの対馬市における魚礁の設置状況ということであります。私のほうから概略についてお答えをさせていただきたいと思います。

まず、対馬市のこれまでの魚礁の設置状況でありますけども、昭和５１年度から並型魚礁の設置に着手をしておりますけども、令和３年１１月末までに１２７か所、設置をしているということでございます。

そのうち、平成３０年度から令和３年度の４年間で２３か所、事業費が約８億６，０００万円

で設置をしておりますし、令和４年度からは令和１３年度までの次期整備計画の中におきまして、今現在、漁協等を通じて要望調査を行い、２２か所を実施予定として計画をしているところでございます。

一方、長崎県の魚礁の設置状況についてでございますけども、長崎県のほうでは、やはり全体、２０３か所の魚礁が設置されてあるということでございます。そして、今、国のほうが直轄で進めてありますフロンティア魚礁の関係でありますけども、フロンティア魚礁といたしましては、対馬の東方工区におきまして１４キロメートル沖合で高さ２１メートル、峰間が約８２メートルの石材、またはブロックを利用したフロンティア魚礁を、平成２９年度から着手されまして、今現在、令和３年度までで完成予定ということでありますけども、何か聞くところによりますと、令和３年度のほうも何か変更を少し考えてあるというようなことであります。

それとまた、併せまして、その領海区域のほうにおきましては、長崎県のほうが野良崎の沖合約９キロメートルのところでこのフロンティア魚礁と一体になった魚礁を計画され、進めてあります。

令和元年から令和５年までの計画で約１８億円の計画で、やはり高さが１５メートル、峰間の距離が８８メートルの魚礁を計画されてあるということでございます。

それと、この漂着ごみの関係でありますけども、漂着ごみにつきましては、新たなごみの実態把握に努めることが重要ではないかというようなことであったかと思います。

実は、昨日の長崎新聞のほうにも、長崎大学の調査船の関係の記事が記載されておりました。このことにつきましては、長崎大学が企業と連携をいたしまして、令和元年度から定点カメラやドローンによります空撮調査をはじめ、昨日の新聞にも載っておりましたように、自律船によるカメラの映像から海上や海中、そして海底の海ごみの調査の実証事業を行うということであります。

また、兵庫県の民間企業であります新明和工業様が国立研究開発法人の委託事業を活用されまして、無人航空機による漂流、漂着ごみの空撮調査も実証実験で実施されているところであります。

これらの調査書はこれからの事業だというふうに認識しておりますけれども、今後も関係者と連携しながら、対馬に見合った効率的な漂流、漂着ごみの実態把握に活かせるよう、取り組んでまいりたいというふうに考えております。

以上であります。

○議長（初村　久藏君）　建設部長、佐々木雅仁君。

○建設部長（佐々木　雅仁君）　作元議員の質問にお答えいたします。

魚礁の数につきましては、今、市長が申したとおりでございまして、今後の市の計画について

も市長が申し上げましたので、私のほうからは今後の県の計画について少し説明させていただきます。

令和４年度から令和１３年度までの１０年間で県の事業としては約７か所程度を予定しているということを聞いております。この計画につきましては、基本的には、現在設置しています魚礁が沈下とかによりまして、埋没しているところもございますので、その上に足していく形で整備をしていくというふうに聞いております。

それと、先ほど質問がございました、フロンティア魚礁の件でございますが、今後の計画について県と国のほうにちょっと確認をしたところでございますが、現在、県が１か所、国が１か所施工しておりますが、今後については、まだ未定だということを聞いております。

以上でございます。

○議長（初村　久藏君）　１７番、作元義文君。

○議員（１７番　作元　義文君）　ありがとうございます。今、数をお聞きいたしましたけども、計算できないくらいたくさん入っているね。本当に４００近いんじゃないかな、数で言うと。こういった魚礁が今本当に活かされているのかなというふうな危惧もしております。

フロンティア魚礁については、今できたばっかりで、今３年に完成するのが１個、それから今市長が言われた東沖のやつがまたもう一個。これは、前から国のほうでも計画されておりますけれども、高さが２０メートルという魚礁ですよ。だから、これは海の流れ、潮の流れを切って、そこに渦を巻かして魚を集めるという素晴らしい大規模な魚礁だと思います。今から先、必ずこれは有効利用されていくのかなというふうには思っております。

ただ、今この４００か所ぐらいある魚礁をどれだけ使っているのかな、私も漁をしながら思っているんですけど、結構、使っている人もおります。これをうまく使うために、調査、テレビカメラを入れて、この魚礁にはどれくらい魚がおるのかなと、これひとつ私が思うのは、五島に産建委員会で行って、洋上風力発電の下を写真を見せてもらった。素晴らしい魚がついているんですね、１基で、あれを今から８基つくるそうですけれども、五島市は。だから、海洋牧場をつくりたいというふうな、そういう壮大な計画を持っているようですが、すごい魚がついていましたよ。水深は７０メートルです。だから、７０メートルのところをカメラで映して、そして皆さんにも見せているんでしょうけど、まだ釣りはさせてないみたいですけど、そういったところを海洋牧場にして、釣りができるようにすれば、こんなに沖に行かんでも魚釣れるようになるんじゃないかなというような気がしています。

対馬も漁業者も２，０００名近くおりますけど、ほとんど６０歳以上で、もう７０、８０が多くなってきますから、そういったところで漁業ができるように、この魚礁というのは、ほとんど地先圏内に入っていますね。地から３キロぐらいのところ、３キロ以内、１００メートルから七、

八十メートル、こういったところに入っているんですよ、どこも。

だから、これの調査を私はテレビカメラを入れて、何か所かずつして、各漁協にそのデータを送ってほしいなという気がしているんですが、いかがでしょうか。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　まず、フロンティア魚礁の関係でございますけども、このフロンティア魚礁につきましては、私、先月、東京のほうで漁港、漁場大会の折に、五島西方沖のこのフロンティア魚礁の講演を聞かせていただきました。この担当者によりますと、アジがこれまでの２倍以上集まっているということでありましたし、そこにはまた、アラとかカレイとか、そういった魚もかなり集まってきていて、それを今度は沿岸部までおびき寄せることを考えていかなければならないというようなことを話されておりました。私もぜひ、対馬のほうで今やっておりますので、この効果がこのように出ることを期待しているところであります。

それと、この今まで対馬市のほうで入れた魚礁のモニタリング調査の件は、後また部長のほうからもちょっと話があろうかと思いますけども、実際に入れた後にはどのような効果があるかということで、水中ロボを入れて調査をしておりますので、また部長のほうから後ほど答弁をしていただきます。

それと、あと１点、議員おっしゃられたように、五島沖のこの洋上風力発電が魚礁効果が十分に出ているということで、私もこの研修等でかなり見させていただいたんですけども、これからは、やはり沖縄のほうではパヤオといいますか、浮魚礁を浮かべたところで漁をしているというようなことでもありますので、この洋上風力発電が設置されれば、そこが融合な魚が集まる区域になるのではないかなと、いい魚礁になるのではないかなという思いを持っておりますので、今後また漁協組合長をはじめ漁業者の皆様方と膝を突き合わせて、できる限り、この洋上風力発電は対馬のほうにも誘致を進めていきたいというふうに思っております。

以上であります。

○議長（初村　久藏君）　農林水産部長、黒岩慶有君。

○農林水産部長（黒岩　慶有君）　魚礁の効果調査についてお答えいたします。

対馬市におきましては、魚礁を設置した後、おおむね２年から３年後に遠隔操作型無人潜水機というものを使いまして、蝟集効果の調査を行っております。また、漁獲の操業調査としまして、実際、釣りを行いまして、またダイバーによります潜水調査も兼ねて、蝟集効果の調査を行っているところでございます。

調査結果につきましては、関係漁協のほうにペーパーとＣＤでお渡しして、公表しているということでございます。

以上でございます。

○議長（初村　久藏君）　１７番、作元義文君。

○議員（１７番　作元　義文君）　分かりました。ぜひ調査をして、漁協にそのデータを流して、漁協によく言ってもらわないかんのは、漁業者にそれをしっかり伝えろよというふうにしておかないと、漁協のデスクの中に入ったまんまのとがある。何の有効利用もされていない。やはり、これからこの資源を荒らさないで取るという方法は、絶対魚礁が有効になってくると、私は思っていますので、ぜひ市のほうからも漁協のほうにそういう体制づくりをするように、指導をしていただきたいと思います。

また、フロンティア魚礁の話を市長が今されましたが、確かにフロンティア魚礁は今から有効な手立てになってくると思います。これは結構沖合ですけども、アジとかサバとか小魚がつくところには大魚も来るんですよ。だから、絶対そこでは漁ができるというふうに確信をしておりますので、これからしっかり対馬の水産を支えていくためには、魚礁の有効活用、これをぜひ市のほうも漁協のほうにしっかりと伝えていただきたいなというふうに思います。

ありがとうございました。これで質問は終わりますけれども、先月だったかな、令和３年ながさき水産業大賞を対馬市の経営体、３つの経営体が独占して知事から表彰状をいただいておりますね。上対馬の築城慎一さん兄弟、木坂の串崎さん、それから水崎の延縄船団、こういった人たちが県知事賞をいただいて帰ってきておられます。

ぜひ、お祝いを申し上げますとともに、これからの水産業の柱として頑張っていただくように、私のほうからお願いを申し上げて、質問を終わりたいと思います。ありがとうございました。

○議長（初村　久藏君）　これで、新政会の会派代表質問は終わりました。

○議長（初村　久藏君）　暫時休憩します。再開は１１時２０分からとします。

午前11時06分休憩

午前11時20分再開

○議長（初村　久藏君）　再開します。

引き続き、会派代表質問を行います。

対政会、１６番、大浦孝司君。

○議員（１６番　大浦　孝司君）　皆さん、おはようございます。

１６番、対政会の大浦孝司でございます。

対馬の将来の水産業について、このテーマで会派代表質問を行います。

また、関連質問として、小島徳重議員が後に行うことになっております。どうぞよろしくお願いいたします。

私は、昨年、第４回定例会において、類似した質問をいたしましたが、そのときは、一方的な私の意見に終わったような気がいたします。今回は市長の直接的な発言を伺いたいと思っております。

令和２年度の資料による漁業従事者数は、約３，９００人のうち、７０歳が約４０％、６０歳から６９歳が３０％を占めております。これが１５年を経過すればおおむね従事者の総数は１，２００人程度と、これを上回る程度のものと数字が見込まれます。これは７５歳までの沖合の操業ができる年齢、そこらを考慮した数字の出し方となりますので、８０歳の方やらおりますが、港から僅かな距離で操業することにおいては、高齢者でも可能でありますけども、沖合での操業を基本とした場合には、これが７５歳、このような判断の下に数字を作成しております。

これは、対馬の産業構成において、大問題だと、私は思っております。まさか水産業に取り組む方々が３分の１しか残らないと、この先、このようなことが現実に見込まれます。

そして、また担い手対策も成果は上がっていないようであります。

このような中で、新しい漁業の方向性について、市長に尋ねます。全島の組合長会、または県・市の行政指導において、この問題の具体的な策は何か考えているのか、お尋ねをいたします。

また、一本釣り漁業と並行し、県知事による中型まき網漁業の将来的な導入について、どのように思われるか、市長の意見を賜りたいと思います。

次に、島内の水産加工工場が複数ある中、地元の魚の仕入れがスムーズにできないようであります。

漁業関係者は、島外市場の系統出荷を基本としている思われますが、これを一転し、島内加工業者にも供給できる、アジ、サバを中心とした荷さばき所もしくは、小型市場を将来設立する、これを進め加工産業の施設の拡大により、多くの雇用が発生すると思われますが、このことについて市長の御意見を伺いたいと思います。

昨日、産業建設常任委員会の委員長報告の中で、全島の水産加工事業所を２か所回り、その現場を視察しました。この中で非常に魚の仕入れができにくい、それで事業が伸びておらない。この現実の御意見を直接、委員会は聞いております。

この場で、将来の構想について、市長がこの問題について、どのように思われるか、このことをしっかり今日は議論してみたい、このように思っております。どうかよろしくお願いいたします。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　対政会、大浦議員の質問にお答えいたします。

対馬市の基幹産業であります水産業の現状としまして、海洋環境の変化に伴う漁獲資源の減少に加え、漁業者の高齢化、後継者不足が課題となっております。

令和３年４月現在、漁協組合員数は３，７２１人であり、そのうち６０歳以上が約７０％を超えることから、今後１０年から２０年のうちに、漁業者は半減する見通しが強く、非常に厳しい状況に直面しております。

このままでは、対馬の食を支える水産業の安定供給にも影響を及ぼすことが懸念されることから、後継者対策は喫緊の課題と捉えております。

このため、新規就業推進対策として、平成１５年度より長崎県の補助事業を活用し、漁業就業実践研修を実施しながら、合計７１人の就業につながっており、そのＰＲについても、対馬市ホームページ、ケーブルテレビ、就業フェア等を通じて情報発信に努めております。

また、高齢者や女性に優しい住みよい漁村づくりの一環として、漁港整備事業において、防風柵の整備や浮き桟橋等の整備を実施しており、安全で軽労化につながる就労環境改善に取り組むことで、１年でも長く漁業に従事していただけるよう、事業を推進しているところであります。

１点目の中型まき網の将来的な導入についてでございますけども、現状といたしまして、対馬近海では、本土から多くのまき網船団や沖合底引き船団が操業しており、資源保護、安全操業の確保及び操業秩序の観点から、一定範囲内における操業自粛期間の設定等について、対馬市漁業協同組合長会と島外漁業者が相互理解の上、自主的に協定を結んでおります。

このような中、市内には２か統の中型まき網事業者が存在しますが、その他の地元漁業者から、まき網導入への意向は現時点ではないものと認識しております。

対馬市といたしまして、まき網漁業への参入を促すことは、沿岸漁業者との操業調整等の観点からも、協議、調整すべき事項が多いものと考えますが、参入予定事業者の意向があり、地元調整が可能な体制づくりが構築できれば、市としても支援策について検討してまいります。

２点目の島内加工業者への原料安定供給に向けた、市場の開設についてでありますが、議員御指摘のとおり、安定した原料調達のためには、市場機能を有した流通調整組織が必要であると考えますが、この市場の開設には、漁獲に対して通年安定した需要が見込まれることが前提であり、併せて市外へ出荷している漁獲物と同等の単価が補償できないと、漁協や漁業者の協力は得られないものと思われます。

過去には、厳原町漁協前に市場機能を有した施設が開設されておりましたが、需要・供給バランスの不均衡や価格面等、生産者へのメリットが少なく、市場としての機能を維持できなかった事例もございます。

このため、対馬市としましても、現状のままでは水産業の衰退につながる危機感を持っており、多くの雇用を創出する可能性のある加工業やまき網漁業の推進は、有効策となり得る可能性があることから、地元動向を注視しながら、漁協組合長会や長崎県との連携を図りつつ、持続性のある水産業の振興のために尽力してまいりたいと考えております。

以上であります。

○議長（初村　久藏君）　１６番、大浦孝司君。

○議員（１６番　大浦　孝司君）　市長の答弁の中で、ちょっと確認したいんですが、６０を超えた方が７割おると、その方々が、１５年すれば、体もしっかり、７５歳を基本とした場合には、恐らくこの後継対策がうまくいっとらんというふうなことを、私、今回十分身にしみて感じたわけです。

市長の答弁の中で、かなり激減、激減じゃなくて、半数以下になる、７割を超えて漁民の操業者が減る、これを今の段階で、意識したらいいなと思う。

そこら辺りのことが、見越して、組合長会もしくは県、市の先を見た考え方が何かありますかということを尋ねておるわけです。

それで、今の答弁の中には、そのことが全く入っておりませんでした。それも無理もないと思うんです。

先般、対馬振興局のほうに出向いて、いろいろお話を聞きましたが、やはりおっしゃるとおり、今までのことを前に進めるということが、精いっぱいだということでありましたから、特に、何かということを申されませんでしたが、市長もそうでありました。

私、もう少し考えていかないかんということは、市役所から頂いた資料、これ後継者を育成する施策、さっき言いました、市長が。

１８年間かかって、この資料では６８名の数字が担当から頂きました。このことをよくよく考えますと、漁民の経営者は自分の息子を、漁業をさせることを思っておらんなというふうなことが、私、背景にあると見ます。それが現実ではないかと、そこのところを言うちゃいかんけども、その数字が現れておるようにします。

２０年間の間に新しい、そういう呼び込みの中で、１００人に満たないということでありますから、これは今の漁業体系の中からいえば、全部が全部じゃありませんが、一般的な思いは、後継者として、自分の子供を船に乗せて、お前、漁業やれというようなことになっておらんとじゃなかろうかと、私はその思いをしていますが、市長、そこをどう捉えていますか。

私の思いはそういうふうに、この数字から言えば、これはあかんというふうな気がするんです。このまま行っちゃいかんと。ちょっとその辺、差がありそうですか。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　確かに、議員おっしゃられるように、これまで後継者対策として、いろいろな事業に、県とともに取り組んでまいったところでありますけれども、顕著な効果はなかなか現れてないということであります。私自身も考えるのが、やはり後継者対策につきまして、これまで対馬の中で、資源が多かったときには、かなりの後継者も出てきていたということであ

りますけれども、今、資源がかなり少なくなってきた、厳しくなってきたというようなこともありますので、この辺の資源を増やすことも、一緒になって考えながら、漁業後継者対策を考えていくことが重要ではないかなと、私自身思っております。

そういうことで、先ほど新政会の質問の中にもありましたように、今後この漁業資源を増やすための対策も一緒になって進めていくことが、漁業者の激減に対する対策になり得るのではないかと、私自身考えております。

○議長（初村　久藏君）　１６番、大浦孝司君。

○議員（１６番　大浦　孝司君）　全部が全部衰退するというようなことではなく、中には比較的に安定している業種は、聞き取りですが、高浜漁港の延縄船団の壱岐寄りの七里ケ曽根の操業、上対馬漁港のアマダイ、延縄、上県、上対馬、厳原、佐須沖のアカムツの延縄、アナゴカゴ４４船団、定置網、大型１３、小型２２、合計３５。クロマグロ養殖、免許３３の中の１１万４，０００尾、それから、この辺については非常に対馬の沿岸漁業の中でも、収入が安定して、将来の、将来といいますか、収益が上がって、いろいろほかの業種よりはましであるということで捉えておりますが、それ以外で、イカ漁の不漁、あるいは燃油の高騰、これは発電機をたくということでございます。ヨコワの規制、もろもろこのような中の、現状の中で、私は、先ほど言いますように、７割の方が近い将来、健全な形で沖合に操業ができにくくなるということを、肝に銘じたほうがいいんじゃなかろうかと、その中でどうするかということを、考えないかん時代が今からである、今である、かように思います。

時間がございませんから、このことは、先に進めたいと思います。

先ほど、産業建設常任委員会の事業所の調査をしたわけですが、この２か所の中で、非常に魚の仕入れが困っておられる姿を見ました。そして、現実の話も聞きました。

このことについて、ちょっと触れてみたいと思うんです。

まき網の件は、市長の答弁で結構だと思うんです。ただ、現状で２事業者がやっておられる中で、加工魚種のアジ、サバ、これが今回の事業者の仕入れに、できれば今からの中で、話合いを進めていかれんだろうかというふうなことが、今回の会派代表質問の狙いでございます。

ちょっと話を聞いてほしいんですが、まず最初に、比田勝港、泉のジャパンシーフーズ、ここに参りました。この会社は３５年を経過したアジとサバを中心とした、そういうふうな販売事業を全国に展開し、６か所に営業所を開設しているというような説明資料を見ております。

それから、この事業者は資本金の１億円、作業員が全体で２００名おられます。そのうち対馬の工場で４４名が作業されておりました。特に上県、上対馬、この若い方々が取り組んでおられました。

そして、年商、売上げが３８億円の会社全体の中で、対馬工場が約２０％のシェアである、か

ようであります。

そのような中で、仕入れの現状は、本土から購入したものを対馬に運んできて、また出すと、非常に流通の中で一番マイナスの面が生じております。ここのとこなんです。この会社については。

長崎沖で捕れたアジ、サバを食用の刺身に、加工に行っている水産メーカー、全国の量販店に納品すると、このような話の説明。

対馬工場で「うまかあじたたき」、令和元年度むらおこし特産品コンテストで経済産業大臣賞を受賞、このあじたたきが売上高のアジフィレ７割を占めておるということであります。

問題は、長崎沖という言葉が五島、佐世保、長崎、そして隣の唐津、福岡魚市、この箇所から市場購入されているという説明でありました。ちょっと電話で聞いたんですが、どういうふうな確保された状況かといえば、大中小のまき網、これは小型まき網だけじゃなくて、大中小、結局まき網で捕った魚を市場で買いますということであります。

ですから、ここが一つの問題で、１日当たり７００箱ぐらいを確保しとるそうです、１４トン購入、これは会社全体で。

ここらにおいて、どうしても対馬のアジやサバが、将来的に確保できれば、今の４４人の工場が１００人を超えるような思いでやりたいという説明でございました。このことを、私は、比田勝市長にぜひ話だけは一応聞いて、そして双方の意見を聞いて、折り合いがどうつけられるか、この辺にひとつ頑張ってほしいと思って、今日は質問しています。

今までのことは別、今からどうするかという中で、前に春田委員長がおりますが、やはり私本当、久しぶりに若い方が対馬で、ぎらぎらした目で働きよる姿を見たときに、この人たちが本当の企業誘致の職員やなという思いがしました。

だから、仕入れ問題は、市長に中に入って、行政が中に入って、操業側が２隻おるやないですか、その皆さんの話と福岡魚市の、いわゆる価格を下回るようなことではなく、同等の金額でいけるような話になれば、あるいはその選別行為がどう価格の中で影響があるか、これは話合いだと思います。

市長、あなたにこの中に入っていただいて、企業誘致のために、１００人の工場の従業員の稼働をひとつ腰を入れて頑張ってほしい、このような思いをしとります。御意見を頂戴したいと思います。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　まず、議員がおっしゃられることは、私もよく理解をしております。

そういうことで、今、上対馬地区には中型まき網が２か統ございます。以前は、これ４か統ございました。そういうことで、この４か統のまき網が、今は全然比田勝港のほうには、水揚げが

されてないということで、できれば、この比田勝港のほうに水揚げをしていただければ、その加工業者のほうがかなり、先ほどから議員おっしゃられるように、仕入れの関係で助かるいうようなことで、もし中型まき網の業者さんのほうが、比田勝港に水揚げをされるということであれば、選別機は市のほうで準備をしてもいいじゃないかと、それではやりますよということまでは、私申し上げたことがございます。

ただ、以前いろいろ問題があったのが、やはり中型まき網については、許可魚種がアジ、サバ、イワシということで、たまたま比田勝港に揚げたときに、指定魚種以外の魚が、やはりどうしても混獲で、混じるというようなことで、第三者から、ほかの魚も捕っているというようなことで、確か漁業調整事務所に投書をされたという話もお聞きいたしました。

そういうことがあって、それ以後は、島外の港に揚げているということをお聞きしております。

まずそこのところの改善が、私必要ではないかなと思います。

それで、もしそういうことで御理解を頂けることがあれば、私は、先ほど申しましたように、選別機が必要でありますので、そこは市のほうで支援をしていっていいのかなと思っています。

そのことによって、ジャパンシーフーズさんみたいな、加工業者さんはわざわざこの対馬沖で捕れたアジ、サバを松浦とか、そういったところを介して、また逆輸入というような不効率な形で、対馬のほうに仕入れて、それを加工して、また出すということで、かなりの不効率になっておりますので、そこら辺の改善ができれば、対馬の加工業者さんは大変助かるだろうと思いますし、また、これからも加工業者として、対馬のほうに進出される業者さんも出てくるのではないかと思っております。

○議長（初村　久藏君）　１６番、大浦孝司君。

○議員（１６番　大浦　孝司君）　どうもありがとうございました。

私はその選別機のことを市が腰入れてとおっしゃった話、初めて聞きまして、それと大中というのは、なかなか難しいと思います。県の許可のアジ、サバ、イワシを基本としたまき網、これが今回の一つの対馬での、取りあえず立ち上げの話合いの対象かなと思うんですが、もう一つ、豊玉の地域商社も苦しんでおられます。

実態は、豊玉管内の定置網の業者さんと話し合って、その一部の方から仕入れるという、思うように集荷できないという、事業が伸びないという問題を見ました。担当にも聞いたらそうだという話でございました。

この地域商社というのは、もともと国境離島の事業の中で、谷川代議士がこの事業について、かなり力を入れて進められたような、私は耳にしたことがございます。

やはり仕入れの問題、共通して、地域商社そしてジャパンシーフーズ、これを解決して、売上げを伸ばして、そして決して福岡魚市に引けを取らんような協議、約束をして、話をさせること

が、今の一つの課題でありますし、本当に実現して、今の４４名が工場拡大をするような言い方をしていました。そういうことがあれば、１００名まではしたいという話していました。何もその人に合わせることは、一つの基本ではありませんけども、足元ある品が対馬のためになるということの考え方に変えていかないと、今からの時代というのは、やっぱり経済行為において、利を伴うことを考えないと、外の長崎の当日は、鹿児島のゴマアジをわざわざ鹿児島から運んで、そんなことをやっておりましたが、企業ですから、それを見込んで計算の合うことでやっておられるわけです。

一つ、上県、上対馬の若い人が、さらに６０人超えて就業できる場所をつくるチャンスであると、私は思っています。

市長、この問題、時間をかけて十分、相手方と話し合いながら、事を進めていただきたい、かように思います。

それと、時間がもう少しであれなんですが、沿岸漁業に対する行政の対策、非常に国の補助事業は、船のエンジンを全てやり替える、競争力強化型機器等導入緊急対策事業、これは大型船、あるいは小さな船、船外機までのエンジンを国が補助しますよ、補助率２分の１、１人最高事業対象２，０００万、これは間違いございませんか。２，０００万は。進めますよ。２，０００万上限でしょう。

これを、いつまでこれは続くのかという話を聞いたら、今のところ、予算的な制限、あるいは何年までということの指示はないそうです。

ですから、この対馬に残られる漁業者の方々が、この事業でやはり船を、エンジンを。古くなった方々については、十分対応していくような指導を徹底していただきたい。

こんなこと、普通ないですよ。私はそう思います。市長、その辺、部長でもいいですが、このことに対する御意見を頂戴したいと思います。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　競争力強化型というのは、確か令和元年ぐらいから、去年まで、対馬市もずっとやっておりました。

ただし、壱岐や五島のほうは、競争力強化型は事業実施しなくて、油の直接補助をやっていったというような中から、漁協の組合長会の皆様がお見えになって、競争力強化型のほうは、必要な方々は大体済んだというようなことで、競争力強化型のほうから、燃油の直接補助のほうにシフトしていただけないかといったような要望がございましたので、対馬市として今現在は、競争力強化型はもう断念いたしまして、油の、燃油の直接補助のほうにシフトしているところでございます。

ちょっと私の足らないところは、部長のほうから、少し。

○議長（初村　久藏君）　農林水産部長、黒岩慶有君。

○農林水産部長（黒岩　慶有君）　お答えします。

補助事業で、２分の１の事業は残っております。これまで、市で１０％上乗せ補助しておりましたが、その分は燃油補助のほうに回しておりますが、国費の２分の１については、事業継続しております。

以上でございます。

○議長（初村　久藏君）　１６番、大浦孝司君。

○議員（１６番　大浦　孝司君）　市長、エンジンの取替えは、その前やって、市が取った助成を燃油のほうの切替えになるという話は、担当言ってましたから、それは一致しておりますので（発言する者あり）、今日、関連質問で小島議員が、私の次に待っておりますので、時間の都合上、これで、市長前向きにひとつよろしくお願いいたします。何遍も言いますが、しみじみそういうふうな思いになりました。

若い人たちがああいう職場で、実際に見たときに、やはりこの子たちがこの島にいつまでも残るということを、私は本当思いました。そういうふうな思いで、しっかり話合いの中をつくってほしいと思います。

私のほうは、以上で終わります。

○議長（初村　久藏君）　関連質問に入ります。

対政会、１１番、小島徳重君。

○議員（１１番　小島　徳重君）　１１番、対政会の小島徳重でございます。

私のほうは、磯焼けの一因である食害魚の資源化に向けた、捕獲、流通、加工、販売の仕組みづくりに特化して質問をさせていただきます。

平成２８年９月定例会での一般質問を皮切りに、これまで計５回にわたって、この問題について一般質問を行いました。

その間、漁業者、加工業者、行政が一体となった取組が見られるようになり、現在は、未利用魚等流通促進支援事業補助金ということで、取組が展開されております。そして、徐々に成果が上がっていると認識をしております。

しかし、事業はまだ実証段階であり、現場で奮闘されている方々からは、課題も多いと聞いています。流通、加工、販売のネットワークづくりを、もっと強力に進めるべきではないかと思います。市長のお考えをお聞かせください。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　食害魚の資源化についてでございますけども、海水温の上昇によりまして、魚の活動が活発化することで、食害に対して耐性の弱い種類が衰退、消失し、耐性の強い

種類が優占する植生の変化が起きているということは、事実であります。

対馬市における藻場の主要成種であります、アラメ、カジメ類では、魚の食害が顕在化したことによりまして、ほとんどの場所で、網囲い等により、魚の食害から防護しないと残存できない状況であります。

現在、対馬市では藻場の再生を重要課題と位置づけ、取組を展開しておりますが、その中で藻場再生の阻害要因と考えられます、食害魚の駆除と有効活用に努めているところでございます。

食害魚のうちイスズミにおいては、補助事業において、駆除された魚体の利活用について、民間加工業者の積極的な参入、加工技術の向上、販路拡大への取組等が付加価値向上につながってきており、一定の成果が発現していると思っております。

一方、アイゴにつきましては、補助事業での駆除実績が少ない反面、産卵期の６月頃に、一部地域の定置網におきまして、短期間で大量に漁獲されることが多いということで、先ほど、この資料のほう頂きましたけれども、やはりここでも６月にかなりのアイゴが水揚げされているといったところでございます。

そういうことでございますので、この定置事業者の多くの皆様がその処理に苦慮されていることから、アイゴにつきましても、食へつなげる取組が重要であると判断いたし、今年度より地方創生推進交付金を活用して、一部の定置事業者、運搬業者、漁協及び対馬市の水産加工連絡協議会の賛同により、実証事業を開始したところであります。

しかし、今年度は、先ほど申しましたように、通常の定置漁獲には着手したものの、６月の大量漁獲に向けた取組には、対応できなかったということから、令和４年度の計画では、年間を通して実証事業を継続していくことで、アイゴの大量漁獲時においても、効率的な流通体制が確立できるよう、取り組むこととしております。

未利用魚の利活用を推進することで、その価値が向上し、有益な食材として認知されることで、駆除との相乗効果が出るものと考えますので、今後は藻場の再生につながる資源循環の取組を加速してまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（初村　久藏君）　１１番、小島徳重君。

○議員（１１番　小島　徳重君）　市長に、今、答弁頂きましたように、食害魚駆除の中で、イスズミは現場の方からの声では、減ったというふうに聞いております。やはりここ二、三年の取組で、本当にその魚そのものが減ったのか、漁師の方々が刺し網であったりといろいろな方法で捕獲されたから、ほかのところにまた場所を移したのか、そこはまだ追跡が必要だというふうにおっしゃっていますが、しかし、実際にそこを漁場としている猟師の方々は、イスズミは確かに減りましたよということをおっしゃっているわけで、ある効果ということで認めたいというふうに

思っているんですよ。

ただ、イスズミについては加工についても、いわゆる手法を工夫されて、食材化もうまくある程度いって、認知されている状況にはなっています。

ただ、それをいわゆる消費する段階のところは、まだ十分ではないというふうに思いますけども、今日私が特に強調したいのは、市長にもお渡ししていましたし、ここパネルにも上げておりますけども、アイゴのほうが、いわゆる問題なんですね。アイゴは、定置のほうに集中して入ると、一遍に２トンも３トンも入ることもあると、それが夏場だから加工するのが大変だということですね。

それで、いわゆる一旦保管して、冷凍庫の中で保管して、そして次、加工を徐々にしていくということになるから、保管料がいると。これが一つの問題点ですね。

そして、２番目は、アイゴは御存じのように、いわゆる加工するのに、とげ、いげがありますね。これがあって手がかかる。そして、魚体そのものが小さいから、いわゆる歩留りが悪いと、そして、いわゆる内臓量は多い、そして魚体が小さいために商品化するためには業者の方というか、加工業者の方はなかなか増えないと。今、加工してすり身とかいろんなことにしてある方は少ないわけですよね。

その辺りで、現場で加工してある方々は、今の実証事業の中で補助がついている金額を、アイゴについてはもう少し補助を上げていただきたいという声なんですよ。これ私、水産課のほうの課長には声は届けていましたけども、市長のもとにまで届いているかどうか分かりませんが、その辺りで、イスズミとアイゴでは、いわゆる加工に違いがありますよという認識は主張していただけますかね。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　令和３年度におきましては、このアイゴの１キロ当たりの補助金は６５円ということになっていたようでありますけども、これをいろいろ要望等もあったということを聞いておりますけども、令和４年度では７９円までちょっと上げていこうということで、今計画がされているということでありますし、そこに氷代とか送料とか保管料を併せたことで対処してまいりたいということで計画をしていることであります。

○議長（初村　久藏君）　１１番、小島徳重君。

○議員（１１番　小島　徳重君）　ありがとうございました。いわゆる、これは実際、捕獲に関わってある方、運送業者の方、加工される方、それから商品として使われる方、その方々の声はそういうところに凝縮されていたわけですから、ぜひ今述べられたこと、いろんな予算で実施に移していただきたいなと思っております。

次には、イスズミにしてもそれからバリにしても、いわゆる加工すれば品物が原料が入って、

そして加工さえすれば次に今度は消費先が安定してないというか、そこに問題があるんですけど、このことについても、水産課なのか商工関係の部署なのか分かりませんけども、その辺りのつなぎが不十分だというふうに思っていますけど、これは、以前そのことは学校給食との関係でも取り上げたことがあるんですけども、そのことについて、市のほうは消費へ結びつけるということの手立ては、何か方策を考えてありますか。

○議長（初村　久藏君）　農林水産部長、黒岩慶有君。

○農林水産部長（黒岩　慶有君）　お答えいたします。

確かにこのバリについては、今現在、魚価がしておりませんで、これを流通に乗せるというのは、大変至難の業かなと思っておりますが、今後の予定としましては、島内流通、学校給食を含めて、普及はさせていきながら、島外を視野に入れて、練り物工場とかそこら辺の可能性を探っていきたいなというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（初村　久藏君）　１１番、小島徳重君。

○議員（１１番　小島　徳重君）　ぜひそのことでいかに加工したものが商品に結びつくかということのつながりを強化していただきたいと。

私データとして持っているのは、学校給食だけを例にとっていますけど、学校給食のほうで、海藻類、あるいは魚介類の地元産の消費のデータを教育委員会からもらいましたけども、８給食場があるんですけど、地元の魚介類を一番よく使っている調理場で７３．２％、これは突出して高いんですよ。平均したら、魚介類の地元産使用は３０．７です。一番低い調理場は、１９．３ですよ。すごく差があるんですよ。

これは、調理場で、学校の調理場で調理するわけではない、もうでき上った製品、練り製品なり、あるいは焼いた、加工した段階で行っているわけですから、どこの調理場でも使えるはずなんです。ところが、そこが使えていない。今日は教育長には答弁を求めていませんから、教育長はお聞きいただいて後は御指導いただければ結構ですけど、そういう差があります。

ほかにもいろんな大きな消費をするところ、例えば、病院なり福祉施設なり、いろんなところで低脂肪で高たんぱくというのが、今、イスズミにしてもアイゴにしてもそういう商品なんですから、ぜひこれをもっと広げるような手立てをお願いをしておきたいと思います。そして、加工する人もそうすれば増えます。

そして、アイゴについては、練り製品だけじゃない、それからいろんな干物にしたりするとか方法もあるんだけども、それを、先ほど言ったように、サバ、アジみたいに大きな扱いじゃないけれども、これも地元で商品を回すという意味では、有効になると思うんです。

サーキュラー経済といいますか、ぐるぐる回すという、そういう意味で、今先ほど市長も言わ

れたように、漁獲する人にもいい、それから運送する人にも、加工業者のところに運行する人にも報酬、利益が行く。それから、保管するところにもお金が回るというデータを今これ市が委託してあるこの団体の方がデータも出してありますから、ぜひこれを活かしてやってください。

そして、もう一つは、市長にお渡しをしていましたし、先ほど、作元議員の質問にもありましたし、藻場の回復という点で、五島市が先行的な取組をしていて、ここにありますように、温室効果ガスゼロに藻場活用ということで五島市が取組を始めていて、これ新聞報道もされました。ぜひ対馬市もカーボンオフセットということでクレジット、これ森林については取組をしてありますよね。だから、海についても、先ほどから藻場の回復大事ですよということ出たんですから、この制度を取り入れたらどうかということで提言をしたいんですけど、市長のお考えをお聞かせください。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　このカーボンオフセットということで、先ほど議員おっしゃられたように、森林のほうでは対馬市の取組は早かったんですけども、まだまだこの海のほうではブルーカーボンの関係ではまだできていないということでありまして、五島市がさきにこういうふうにやったということであります。

対馬市としてもこの五島市、そしてこの新聞記事を見ますと福岡市等もやっているということでありますので、先進、先行地等を参考にさせてもらいながら、検討させていただきたいと思います。

○議長（初村　久藏君）　１１番、小島徳重君。

○議員（１１番　小島　徳重君）　それから、もう一点、藻場の回復という点では、対馬市には専門的な職員がいないということがありますね。振興局の水産課、それか指導所、普及所ですね、ここのスタッフがおられますよ。それで、事務的な、いわゆる技術的な指導を受けるために、市のほうと振興局の部署を一緒のフロアで仕事をするとかして、そういうことも考えていただきたいなということで、最後にお願いをしておきます。

以上です。

○議長（初村　久藏君）　これで、対政会の会派代表質問は終わりました。

○議長（初村　久藏君）　以上で、本日予定しておりました会派代表質問は終わりました。

明日は定刻から市政一般質問を行います。

本日はこれで散会とします。お疲れさまでした。

午後０時16分散会